

資質・能力を育成する視点から学習指導案を作成してください。

## 国語科学習指導案（記入例）

（参考資料）

- 学習指導要領解説国語編（H29）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

令和○年○月○日（ ）○校時

○○○学校 年 組 名

授業者

言語活動を具現化した単元名を設定する。教材名ではない！

年間指導計画 p○○（月）指導内容

- 1 単元名：㊦「ジャーナリストになって環境サミットを開こう！」  
教材名：㊦「固有種が教えてくれること」（光村図書5年）

- 2 単元の目標（3つの資質・能力で設定！評価規準と整合性を図る）

（1）情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕（2）イ

- （1）言葉の特徴や使い方に関する事項  
（2）情報の扱い方に関する事項  
（3）我が国の言語文化に関する事項 の どの事項かを示す。

（2）事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B（1）ウ

（3）思・判・表の項目は2項目程度が指導と評価の一体化の実現を目指しやすい。

（4）言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

「学びに向かう力、人間性等は、各学年の目標の「言葉がもつ～伝え合おうとする。」までを示す。

教科の特質

- 3 単元で取り上げる言語活動（学習指導要領の言語活動例等から）

\*必須！（国語科は言語活動を通して3つの資質・能力を育成するから！）資質・能力育成の手立て  
㊦今後生活していく社会環境についての自分の考えと根拠を、身近な事例や資料（データ）を基にしながら3段構成で意見文を書く。

教科の特質

- 4 単元について

（1）教材観…指導事項に係る本教材の特徴

教材のもつ価値や内容、教材解釈、単元目標にせまるための本教材の有効性等を記述する。

（2）児童・生徒観…本単元を学習するにあたっての児童・生徒の実態

（興味、関心だけではなく、本単元を学習するにあたって、既習でどのように学んだ結果、どんな言葉の力が身についており、どんな言葉の力が定着していないから（RPDCAのRリサーチ）、本単元ではどのような児童生徒の姿を目指すのかを示す。

(3) 指導観…教材の特徴を生かし、どのような学びを展開させていくのか。

児童・生徒の学習課題、校内研究・個人研究等にどのようにせまるのかも示す。  
単元構想で最も核になる部分。

\*単元目標と内容、項目数を揃える。

\*知・技、思・判・表は、単元目標の文末を「～している」に変換する。

### 5 単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「～している。」 ((2)イ)	「書くこと(冒頭に当該単元で指導する領域名の表記)において～している。」 (B(1)ウ)	「～しようとしている。」 ㊦①粘り強く(積極的に)、③情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使い、②学習課題に沿って、④情報を読んで活用しようとしている。
<p>*1~2項目までを焦点化することが望ましい。(評価の実現化と指導の焦点化へ)</p>		<p>①粘り強さの側面(進んで等も)②自らの学習の調整 ③「知・技」「思・判・表」の重点④具体的な言語活動の組み合わせで設定。</p>

### 6 単元の指導と評価計画例(記録に残す評価を計画的に行う。記録を残す評価のみの記載。)

\*指導に生かす評価は計画に記載しなくても学習状況の把握は実施(指導と評価の一体化)

	時	学習活動	指導上の留意点 (支援の手立ても記入)	評価規準(評価方法等)
第一次	1	学習のねらいや進め方等、見通しをもつ段階。  学習者主体で示す。	㊦単元扉や題名等に着目させたり、教師のモデルを提示したりする。  教師主体で示す。	毎時間ではなく、題材や内容のまとまりで評価  記録に残す評価をしない時間もあり得る。
第二次	2・3・7 (本時)	本単元で身に付けることにせまる学習段階。 ㊦ノートにまとめたことを友達と話し合い、相互に質問したり、気付いたことを伝えたりして、自分の考えを整理する。	㊦収集した情報を説明できるか、情報と「分かったこと」が対応しているかという点を友達と確認する場を設定し、必要があれば修正を求める。	㊦思・判・表 (A・B・Cのウ等) (ノート、ワークシート、カード、文章構成表、意見文、観察等…)

第三次	8・9	身に付けたことを活用したり、単元を振り返って、身に付いたことを実感したり新たな探究を求める学習段階。	主体的に学習に取り組む態度（振り返りの記述等）
-----	-----	--	-------------------------

記録に残す「主体的に～」の評価は、どんなに早くても2時間目以降に設定する。

7 本時の指導 (第 7/9 時)

(1) ねらい ～することができる。 \*本時の終末にめざす子供の姿  
(本時で身につけさせたい力として、更に具体化、焦点化する)

(2) 本時の評価規準

評価の観点	(単元の評価規準のどれか?)
評価規準	<u>～している。</u> *おおむね満足 (B) を記入する。
評価方法	授業内： 授業後：

(3) 「めざす子供の姿」の実現に向けた授業改善 (教材・発問・問い返し・過程工夫等本時の山場)

場面	工夫点 (発問等)	子供の姿
主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ。 他者との交流を通し、「問い」が生まれ、自分の考えを広げ深める。 学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ等から1～2場面を記述する。	㊦ 文末の工夫に気付かせることで、事実と意見、理由を区別しながら記述できるようにする。	㊦ 目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりして事例を基に自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫する。

留意点と評価を分ける場合もあり。

(4) 展開例

過程	学習活動・内容・発問等 (児童の反応を挿入する例もあり)	予想される児童の反応 (指導上の留意点設定もあり)	指導上の留意点・評価等
(導入) つかむ・見通す	㊦ 本時の学習のねらいを確認し、見通しをもつ。  <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; display: inline-block;">めあて</div>	活動のみの確認にならないようにする。 本時のねらいを達成するための学習課題を児童・生徒の言葉 (教師の加除修正あり) で設定。	㊦ 筆者の書きぶりの特徴に気付いた児童の前時の振り返りを提示する。
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">             例) 5w1HのQ型 どんな、なぜ、どのように～だろう?              例) レッツ型 ～に着目して (をもとに) 意見文を書こう! (～しよう)           </div>		

<p>(展開) 考える・深める</p>	<p>学び合い</p> <p>言葉に着目させ、考えざるをえない状況を生む学習活動、発問を準備しておく</p>	<p>◎筆者の～さんは、「～なのだろうか」という問いの繰り返し表現が多いから、読み手も一緒に考える効果がある！私もこの表現を使ってみたい…。</p>	<p>◎【思・判・表】 Bウ (意見文の記述)</p> <p>Bに到達しそうにない児童・生徒を把握したら新たな手立てを施したり、次時への展開を軌道修正したりすることも想定しておく。</p> <p>◎Cへの支援 教師と、関連する資料を見つけたり、交流での記述から情報を見つけたりすることができるようにする。</p>
<p>(終末) 『まとめる』 振り返る</p>	<p>まとめ</p> <p>◎まとめは授業によっては振り返りの中で行う場合もある</p> <p>本時のめあてに応える内容で整理する。 ◎～するには～したらよい等。 *本時の導入時で既に分かりきった内容にならないように「まとめ」から授業を設計する。</p> <p>振り返り</p> <p>学びの実感が得られるようにする。学びの連続性の構築へ</p>	<p>◎～さんは、自分の考えを裏付けるデータを提示したから、私も～新聞からのデータを意見文に加えたい。</p>	

(5) 板書計画 (予定) (電子黒板・ICT等の併用も大いにあり!)

本時終了を想定して、内容を精選し、児童生徒の思考の視覚化をめざして構造的な板書を！  
(矢印や吹き出し)

(6) 教師自身が作成した言語活動モデル等 (育成したい資質・能力の具体像)

(7) 校内研修の検証授業や公開授業等で必要に応じて座席表